

ads.txtを用いた広告構造の透明化によるフェイクニュース拡散抑制の試み

岡山県立西大寺高等学校
チームads.txt

 岡山県立西大寺高等学校

ads.txtを用いた広告構造の透明化による フェイクニュース拡散抑制の試み



発表者：佐藤楽音 飯沼琉維 土屋陽
 岡崎颯汰 亀山園実 田崎奏

協力・共同研究：笹埜健斗

なぜ**BeLive**で訴えたいか

フェイクニュース拡散抑制

XSDGs = ???



なぜBeLiveで訴えたいか

A.

情報社会において、人々が安心して情報を共有し、対話できる社会を守りたいから。



4 質の高い教育を
みんなに



16 平和と公正を
すべての人に



17 パートナーシップで
目標を達成しよう

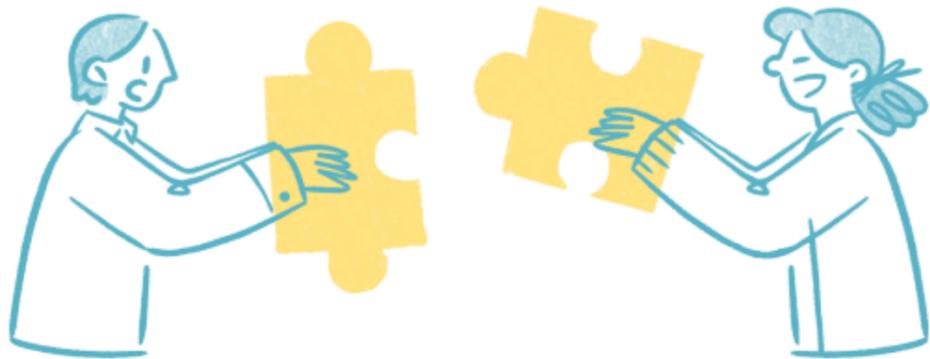


序論

「誤情報」を止めるには



- 当初の目標：身近な誤情報による被害を減らしたい
- 検証方法：フェイクニュースの擬似作成
- 気付き：「意識改革」だけでは、守りきれない。



序論

「誤情報」を止めるには

調査を進める中で⇒

- 「誤情報」の再発信阻止が鍵
 - 情報が拡散されるほど広告収入が増加
 - 結果として誤情報の発信者に利益が発生
- 構造があるのではないかという仮説を立てた。

序論

「誤情報」を止めるには

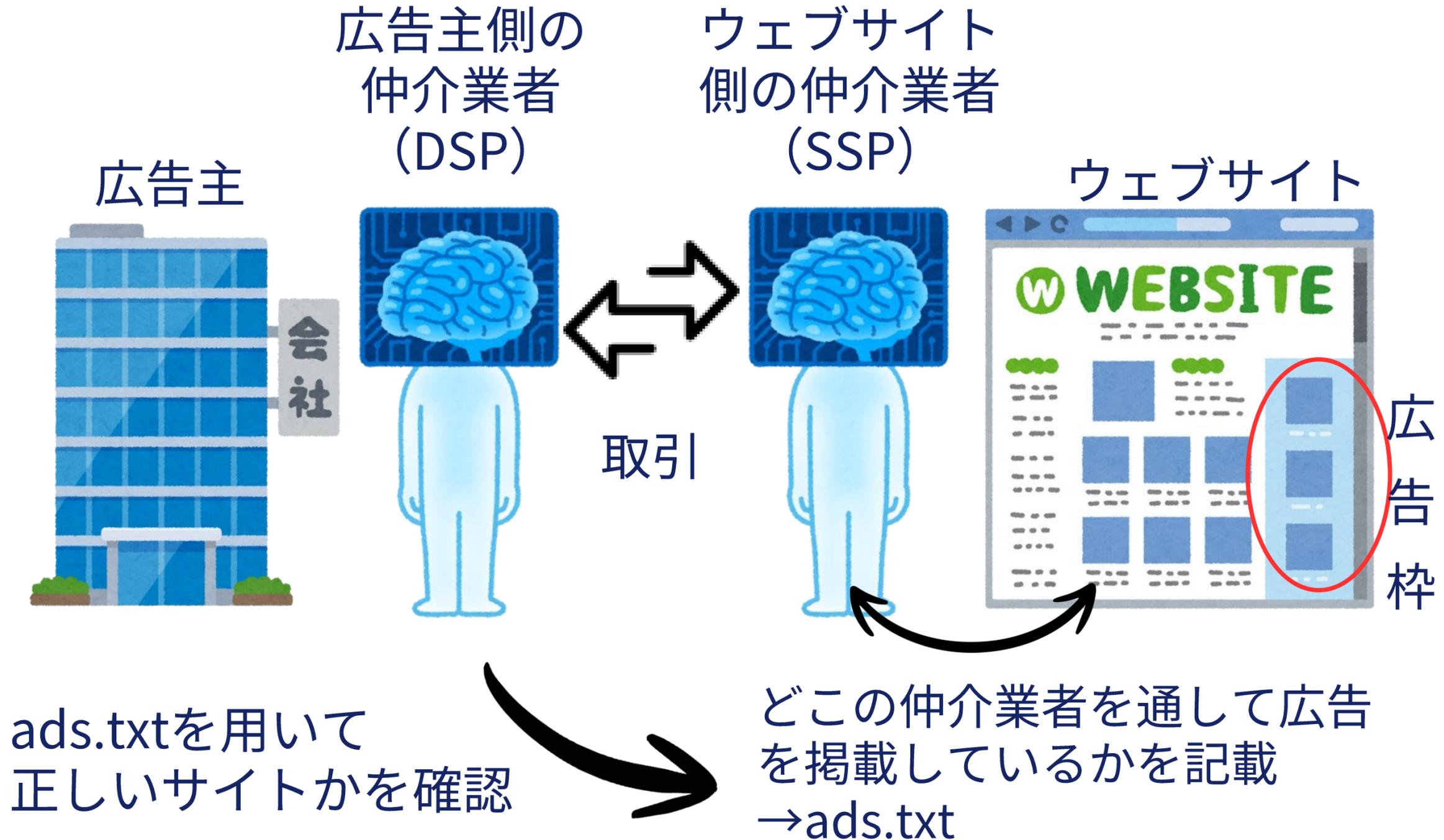
そこで、岡山大学特定教授である笹埜先生の力をお借りし共同研究という形で進めることにしたのが本研究である。

NEXT

なぜ「ads.txt」なのか

目的

なぜads.txtを用いるのか



目的

なぜads.txtを用いるのか

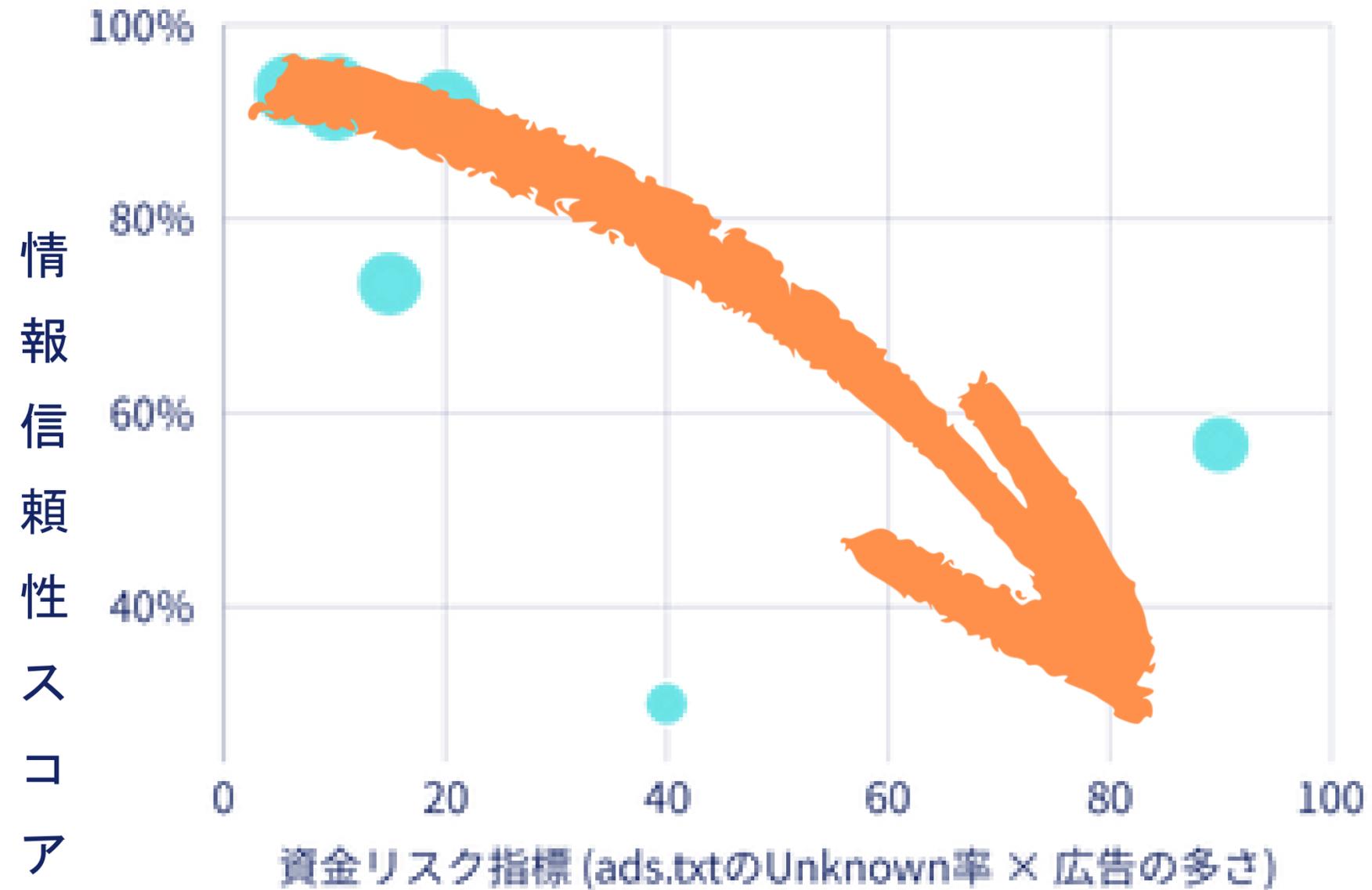
フェイクニュースであることを各サイトごとに診断することは極めて難しい。

- ・膨大な数のサイトがあり現実的でない
- ・場合によっては**検閲**になる恐れも

→しかし、情報信頼性と相関性のあるads.txtのunknown率をもとにするとコンピューターでもサイトについて瞬時に診断することが出来る。

仮定の検証→相関性を求める

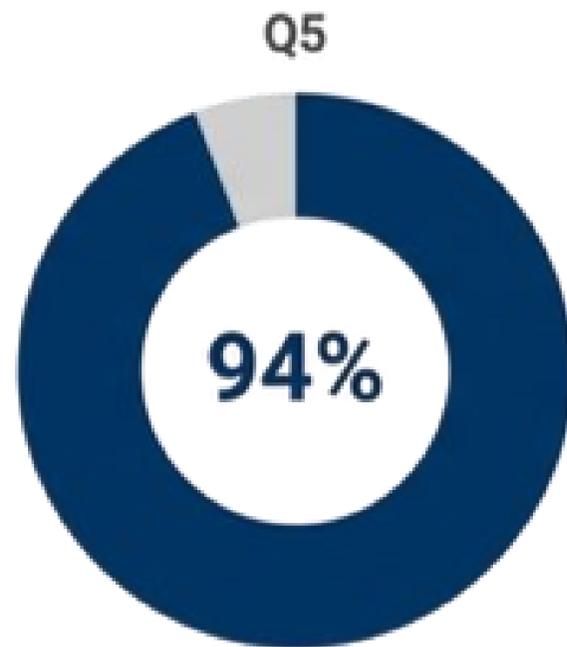
情報信頼スコアが低いサイトほど資金
リスク指標が高い→2つの指標の相関性



作成に向けて 実施したアンケートの結果

深刻な問題だと捉える一方、半数以上が見分ける自信がない

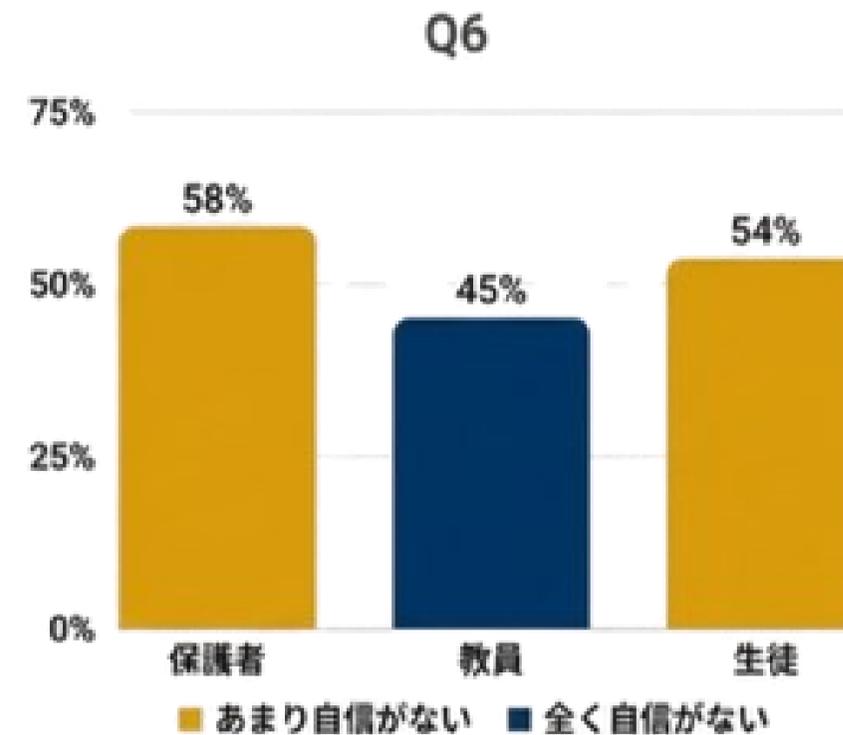
9割以上がフェイクニュースを社会問題と認識



■ 非常に大きな社会問題だ ■ ある程度問題だ

保護者、教員、生徒、全てのグループで危機意識は極めて高いレベルにある。

情報を見分ける自信のなさも、全世代に共通



特に保護者と生徒において、半数以上が自身の判断力に自信を持っていない。



作成に向けて 実施したアンケートの結果

回答者のほとんどは誤情報に対して危機意識は強いが**見抜ける自信**がない

だからこそ一目でわかる機能に期待感を持つ声も

課題：**検閲**のようになるのではという危機感も一定数見られた

⇒ads.txtを用いるという判断基準によって**中立性**を高め

フィルターには基本的に人間の意思が介在しないという**独自の強み**

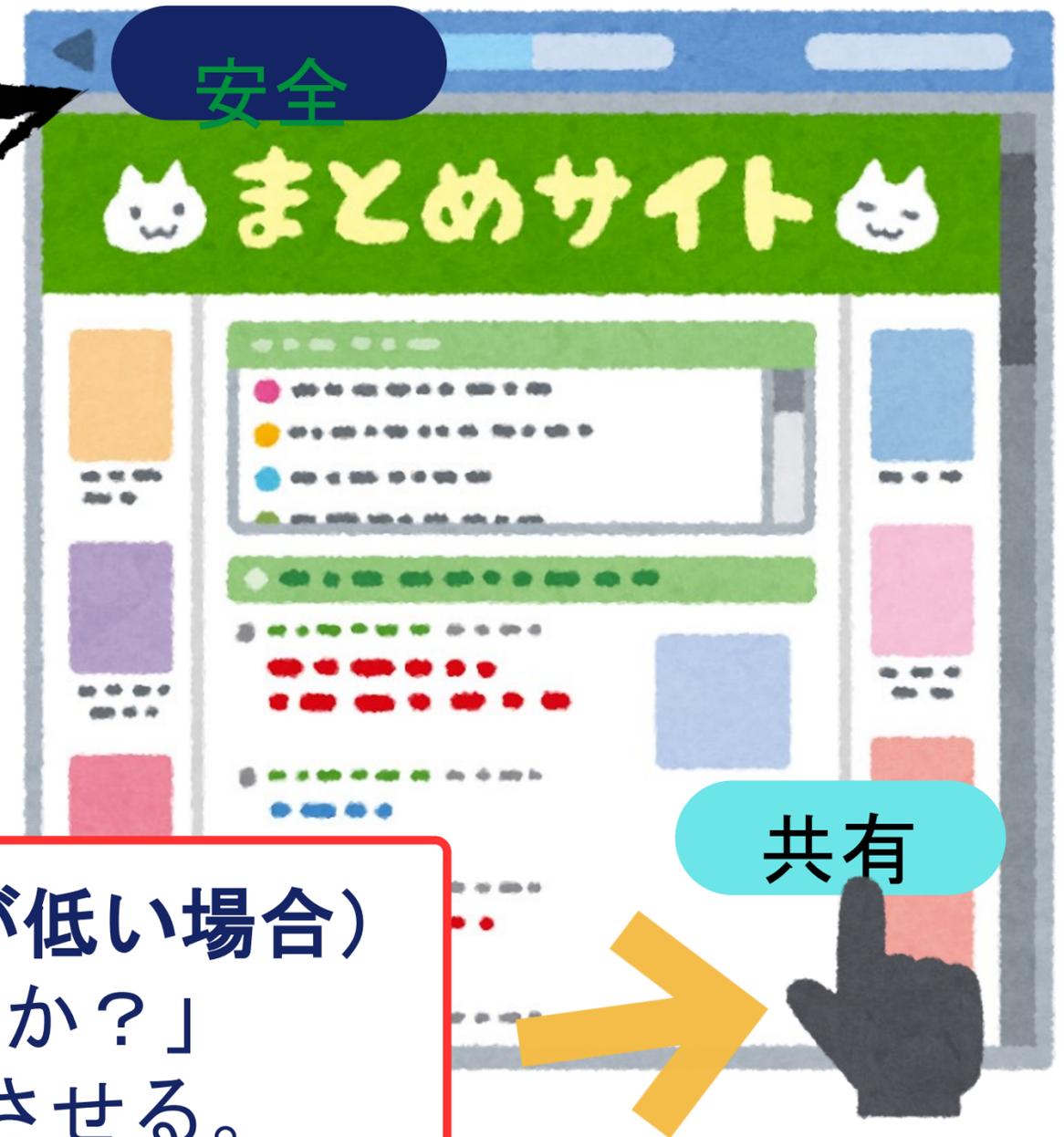
目的達成の方法 ads.txtを用いた拡張ツール

① 「健全度バッジ」 ads.txtをもとにしたサイトの「広告収益の健全性」評価「危険」「注意」「安全」の三段階

【健全である場合】

ads.txtから広告資金の透明性がわかることから、安全である可能性が高いことを利用者に伝える。

② 「拡散抑制機能」（健全性が低い場合）
「情報源の確認は出来ていますか？」
という文言を2秒間表示し再考させる。



SDGsの達成に向けて
情報化社会においてフェイクニュースは
立派な社会問題
だからこそ、みんなで考えたい。



THANK YOU!!

ありがとうございました

